

地域情報化アドバイザー制度活用報告書（4日目）

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	岐阜県立郡上北高等学校		代表者名	川地 晃正
担当者部署	進路指導部		連絡先電話番号	0575-82-2073
担当者役職	地域連携・学年主任	担当者氏名	熊崎孝之	連絡先E-mail
住所	501-5122 岐阜県郡上市白鳥町為真1265番地2			

1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

団体名	郡上市教育委員会	連絡先部署	学校教育課	
担当者氏名	永谷 純	連絡先電話番号	0575-67-1468	連絡先E-mail

2. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	濱田 真輔
評価	大変よい
上記評価の理由（どのようなところがよかったか等詳細に）	日々環境変化をする中で、臨機応変に対応することが求められたが、その都度、学校側の状況を理解し、生徒の学びを止めないための手立てを助言していただいた。また、教員や生徒とともに「防災」について探究することを楽しんでくださり、リラックスして臨むことができた。
アドバイザーへの要望事項	ぜひ、今年度の学びを根付かせたいので、来年度以降もアドバイザーとして支援いただきたい。

3. 地域情報化アドバイザー派遣実績

	派遣日	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）	活動時間（分）
3-1. 活動	2022年2月7日	8時30分	12時30分		240
	派遣形態	支援・助言（オンライン）			

4. 報告書に関してのAPPLICホームページへの掲載許可

掲載許可	<input checked="" type="radio"/> 掲載可
------	--------------------------------------

5. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

5-1. 支援を受けた対象者	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】	人数
	郡上北高校（27人）・白鳥中学校（89人）	116 人
5-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果		
事業の課題・問題点（具体的にご記入下さい）	新型コロナウイルス感染者数が増えている中で、当初の予定どおり「防災」をテーマにした課題探究型学習を実施するためにどのような方法があるかを検討する必要がある。特に中学校側で実施を予定しているワークショップの方法の検討とオンライン機器の使用方法には支援の必要性が高かった。	
支援により目指す成果（具体的にご記入下さい）	（4日目）中学校と高等学校がオンラインツールでつながり、アドバイザーの指導のもと「防災」をテーマにした課題探究型学習を実施すること。これまでのインプットの授業の知識を活用し円滑な意見交流をおこなうために、教員がどのように伴走すれば良いかが理解される場となること。また、オンラインツールを利用した対話でも避難所運営に関する意識の向上を図ること。	
アドバイザーに支援を受けた内容（具体的にご記入下さい）	授業冒頭に問いを与え、中学生と高校生がブレイクアウトルームで対話した。生徒の様子をみながら、ブレイクアウトルームの時間を調整し、中学生の考えを最大限引き出す場を設けた。中学生の入れ替わり時間には高校生のファシリテートの振り返りをし、円滑に進めるための助言を行った。	

<p>支援を受け改善又は解決された内容 (具体的に記入下さい)</p>	<p>オンラインツールを用いての指導ということで、当初はネット環境の不具合などが心配されたが、アドバイザーの助言のとおり実施したことで、問題なく終了した。また、担当教諭は、中学生や高校生にとって今後、このようにオンラインでつながる機会は多くなることや本時の経験はsociety5.0が到来した社会で必要であると価値づけしており、オンラインツールを利用した学びの必要性を教員側も実感していた。ブレイクアウトルームでは、高校生側が慣れてくることで徐々にファシリテーターとしての役割をはたしている様子が見られた。</p>	
<p>具体的な成果物</p>	<p>最も当てはまるものをリストより選択下さい。</p>	<p>⑦その他 生徒は災害がいつ起きてもおかしくないということを自分事として認識していた。今年度オンラインで実施したことで、今後、本事業の新しい展望が生まれた。自宅から参加する生徒もいたことから、このような情報化の進展が災害が多い地域での学びを支えていく可能性が見出された。</p>
<p>改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的に記入ください)</p>	<p>今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、中学生・高校生の対面での交流は実施できなかった。その一方で、オンラインツールを用いて実施し結果的に成功を収めることができた。この成功は、他県の生徒や海外の生徒との交流などの広がりも模索できるなど、これまで3年間継続して実施していた事業を一步進んだものに展開していくことが期待できた。今後も継続して支援いただくことで、白鳥地区の情報化ならびに防災に関する学びの土壌を構築したい。</p>	
<p>アンケートの内容と分析結果</p>	<p>講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。)アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 高校側の意見では、オンラインで生徒の意見を引き出す難しさもあったが、慣れていく中で、チャット機能などを活用するなど工夫がみられた。中学生はオンラインツールに慣れている生徒もいたものの、対話をする経験が少なかったため、最初は緊張をしていたようだが徐々に慣れていった。</p>	
<p>5-3. 今後の計画</p>	<p>最も当てはまるものをリストより選択下さい</p>	<p>⑤その他</p>
<p>事業の最終的な目指す姿</p>	<p>両校の生徒が取り組む「地域をテーマとした課題探究型学習の成果発表会」において、発表内容の質的な変化を期待する。また、本事業から成長した生徒が、地域住民への啓発活動を進め、情報化や防災についての意識の向上が期待できる。</p>	

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子



テレビ会議システムを通して中学生を指導する生徒たち（いずれも郡上市の郡上北高で）



オンライン 郡上北高生ら白鳥中の学習支援

災害避難所、運営どうする？

郡上市白鳥町の郡上北高校観光・ビジネスコースの二年生二十五人が七日、白鳥中学校の課題解決型学習を支援した。これまでは生徒が直接中学校を訪れていたが、今回は新型コロナウイルスの感染防止のため、初めてテレビ会議システムを使用した。

白鳥中は二年八十五人が参加。三クラスで計十八班に分かれ、地域情報化アドバイザー・浜田真輔さんらが災害時の避難所運営を想定したオンライン授業を受けた。

各班は避難所のスタッフとなり、郡上市にどんな物資の支給が必要かを話し合った。避難所運営の課題を話し合った。避難所運営の課題を話し合った。

白鳥中は二年八十五人が参加。三クラスで計十八班に分かれ、地域情報化アドバイザー・浜田真輔さんらが災害時の避難所運営を想定したオンライン授業を受けた。

各班は避難所のスタッフとなり、郡上市にどんな物資の支給が必要かを話し合った。避難所運営の課題を話し合った。

を求めるとを検討。優先度の高いものから順に三種類を決めた。高校生は各班の手助けをしながら、避難所は幼児から小学生まで幅広い年代に及ぶことを確認。避難所としてどんな物資を用意すれば対応できるかを、具体的な理由も考えながら話し合うよう指導した。

高校生は普段からパソコンを扱い、テレビ会議システムを使いこなす。生徒の発言はチャット機能で発言にまとめ、参加者が画面上で見られるようにした。

授業を締めくくると全体会議では、多岐にわたる代表者がそれぞれの要求物資について発表。食料、水、防寒服、スマートフォン用の通信機材、ミネオなどを挙げ、優先順位をつけた理由も説明した。

中には間違っ自分の言葉を消してしまう中学生もいたが、初めてのオンライン授業支援は計画通り終わった。郡上北高で授業を見守った担当教諭は「コロナ禍が続く中、テレビ会議システムを仕事で利用するのは当たり前になっている。この経験を将来に役立ててほしい」と話していた。

中日新聞中濃版でも紹介された(2022.2.8)